

Annual Report

KANSAI MEDICAL UNIVERSITY MEDICAL CENTER
Department of Vascular Surgery



KANSAI MEDICAL UNIVERSITY MEDICAL CENTER

平成31～令和元年度 成績報告

関西医科大学総合医療センター 血管外科

1. 手術統計

手術件数	363例
動脈手術	85例86肢
①閉塞性動脈硬化症	35例/36肢
腸骨(大腿)-大腿動脈交叉バイパス術	5例
大腿-膝上膝窩動脈バイパス術	2例
他の手術に追加施行	1例2肢
腫瘍と合併切除の再建	1例
大腿-膝下膝窩動脈バイパス術	5例
大腿-下腿動脈バイパス術	2例
膝窩-足部動脈バイパス術	7例
大動脈-両側大腿動脈バイパス術	1例
鎖骨下-両側大腿動脈バイパス術	2例
大腿動脈血栓内膜摘除術	2例
他の手術に追加	5例
グラフト修復術、グラフト 瘤	2例
(うちハイブリッド手術)	1例
②急性動脈閉塞	6例
下肢血栓除去術	5例
下肢血栓除去術+PTA	1例
③動脈瘤	36例
胸部大動脈瘤ステントグラフト内挿術	6例
(うち緊急 3例(外傷2例、肺穿孔1例))	
Zone 2:	2例(うちdebranch2例)
Zone 3:	3例
下行:	1例
腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術	25例
(うち同時コイル塞栓 1例、同時CABG 1例)	
(うち破裂例)	1例
大腿動脈瘤	2例
(うちトロンビン注入療法)	1例
膝窩動脈瘤	3例

2. 手術成績

動脈バイパス術	手術死亡 0例、入院死亡 1例
(致死的不整脈にて意識レベル低下、3ヶ月後敗血症で死亡)	
血管内治療	手術死亡 1例、入院死亡 0例
(2日後ASにより突然死)	

④その他	8例
(リンパ漏2例、縫合糸膿瘍、debridement、縫工筋弁充填、PCPS抜去、外頸静脈結紮、CVポート抜去各1例)	

下肢静脈瘤手術	74例75肢
①ストリッピング術	5例
②血管内焼灼術	65例
③その他(高位結紮など)	4例5肢
(うち静脈脈瘤)	1例

バスキュラーアクセス手術	138例
①内シャント造設術	71例
②人工血管シャント造設術	9例
③尺側皮静脈転移シャント	1例
④静脈-静脈バイパス	4例
⑤動脈表在化	9例
⑥永久留置カテーテル挿入	1例
⑦シャント感染瘤手術	4例
⑧シャント閉鎖	2例
⑨シャント血栓除去	1例
⑩シャントPTA	33例
⑪その他	3例
(permanent cath.抜去、banding、シャント分枝結紮各1例)	

血管内治療	66例
①経皮的血管拡張術/ステント留置術	62例
②IVCフィルター留置および抜去	3例
③EVAR後エンドリークコイル塞栓術	1例

大動脈瘤	死亡例、合併症 0
バイパスグラフト早期閉塞	0
静脈瘤・シャント手術	合併症 0
血管内治療	初期成功率: 94%

3. トピックス

●日本血管外科学会近畿地方会を主催

コロナ禍が迫る2020年2月22日、第34回日本血管外科学会近畿地方会を当科が主催して枚方学舎で施行しました。テーマは「育み伝える血管診療」です。直前まで開催の是非を検討したのですが、関西地区の血管外科の発展、および若手血管外科医の育成目的もあり、感染対策を十分施したうえで開催することにいたしました。幸い大きな問題も生じず、参加者133名、発表演題28題、ランチオンセミナー、スポンサー特別講演それぞれ1演題、そしてメディカルスタッフ特別企画に4発表者と、従来以上の盛り上がりを見せました。また、若手外科医育成のため毎年当科で施行してまいりました「関西血管外科基本手技ビデオセミナー」を地方会との共催として初めて行いました。ハンズオンによる外科手技の教育は、今後一層重要視されてきますので、その先鞭を切り新たな方式を確立できたかと自負しております。



●日本外科学会総会パネルディスカッションで報告

2019年4月20日に大阪でおこなわれました第119回日本外科学会の「パネルディスカッション16 重症虚血肢外科治療の限界への挑戦」において当科駒井が「血管内治療全盛時代における重症下肢虚血患者に対するバイパス術の有用性、安全性」のタイトルにて発表しました。これは近年我々が重視してきました重症患者へのバイパス手術の安全性と有用性の両立をいかに確立してきたか、を紹介するものです。リスクの高い重症患者に対しても安全に、治療効果の高いバイパス術が可能であることを証明できたかと思えます。

●医局員が全国学会特別発表、国際学会発表で活躍

本年は駒井のほか、深山医師がIndonesiaにおいてアジア血管外科学会で招請講演を、山本医師が日本血管外科学会シンポジウム「女性医師の会」で指定発表を行いました。またこれ以外に国際学会でも高井医師が2演題を、山本医師が1演題を発表してくれました。今後も若手医師がどんどん大きな舞台に出ていくことを願っています。

●世界の血管外科のリーダーたちとの交流

2019年5月の第47回日本血管外科学会では、現在トピックスとなっている、PADの国際的な新しいガイドライン「Global Vascular Guideline」が取り上げられ、その作成に中心的な役割を果たした英国のProf. Andrew Bradburyと米国のProf. Michael Conteが特別企画にて講演されました。私と旭川医大・東教授でその企画の座長を務めた関係から両人とも非常に親しく交流することができました。このような世界のリーダー的存在と近くなることにより、我が国の血管診療の発展、また当科医局員の励みにもなるかと思ひ、今後も続けていきたいと思ひます。



●3病院の医療事故調査委員会外部委員として貢献

当科駒井は日本血管外科学会医療安全委員であることもあり、本年度は3つの関西地区の大病院での医療事故調査委員会に外部委員として招聘されました。血管外科は特殊な分野であるためその知識と経験を生かして医療安全の質の向上に寄与できたかと考えています。

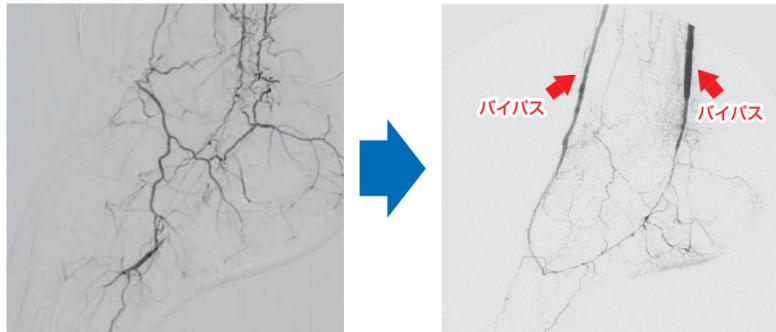
●エジプト人血管外科医留学

前年度より依頼があり、手続きを進めてきました「エジプト・日本パートナーシップ人材育成事業臨床修練研修」による留学生受け入れを2019年12月から開始しました。今年度は1年間の予定でエジプト人血管外科医、Dr. Mohamad Shabanaが当科の一員として研修しています。血管外科知識および手術手技の習得を日夜真剣に取り組んでくれています。当科医局員もなれない英語でしっかりと教育してくれています。今後は血管外科を通じた国際貢献もより一層重視してまいりたいと思っています。



●血管内治療専門施設とのコラボレーション拡充

かねてから当科で強調してきたように、末梢血管診療は外科、内科のコラボレーションが重要で、血管内治療のみでもバイパス手術のみでも十分な効果は得られません。以前より関西地区の血管内治療専門施設の循環器内科医との交流を積極的に行ってきましたが、そのかいあってか、近年はそのような施設からのバイパスの依頼が増えてまいりました。その最重症例ともいえる、足関節以降に全く正常な動脈のない症例に対し、血管内治療とバイパス術を、施設を超えて近接期に行い救肢できた症例を経験しました。患者は血管内治療でもすぐに閉塞してしまう状態であったのでなんとかカテーテルで足背動脈弓を開けてもらい、数日後に転院して当科で足背、足底にバイパス術を施行しました。その後元病院での血管内治療を追加していただきなんと約1年間開存を維持できています。このようなコラボレーションは関西各地の循環器内科との間で交わされるようになり、本当の患者本位の治療ができるようになってきたと喜んでおります。



●新しい血管治療の準備が完了

近年新たな血管治療がいくつか確立されつつあります。まず血管新生療法としてHGFという物質をプラスミドにて虚血筋肉内に注入する遺伝子治療が開発されました。ただ全ての閉塞性動脈硬化症患者に行えるわけではなく、小さな潰瘍があるが血行再建が不可能な患者のみに適応となります。このようなタイプの薬物は世界初となりますので病院としても安全に使用できるよう各種準備が必要でした。このほど病院側の協力によりこれらも完了し、当院でも使用可能となっております。またいわゆる悪玉コレステロールを限界まで低下できるPCSK2阻害薬という薬物があり、家族性高コレステロール血症に適応されることが多かったのですが、閉塞性動脈硬化症で重症患者も冠動脈疾患などで生命予後が悪く、この治療法の適応として追加されています。全ての血管患者を網羅して治療していくにはこれらの新しい治療法は不可欠と考えており、我々も他院に先駆けて取り組むような体制を作っております。適応と思われる患者様がいらっしゃいましたらどうぞ遠慮なくご紹介ください。

4. 研 究

①論 文

◆著 書

1. 駒井宏好 各論 2. 脈管疾患の治療 A. 閉塞性動脈硬化症の治療「④外科の治療」血管診療技師 (CVT) テキスト 血管診療技師認定機構、編 184-7 南江堂 東京 2019
2. 駒井宏好 3. フットケア J. 閉塞性動脈硬化症 V. 動脈硬化症と心血管疾患の治療 日本医師会雑誌 第148巻 特別号(2) 動脈硬化診療のすべて 磯部光章、竹本 稔、前嶋康浩、弓倉 整、横手幸太郎、渡邊善則、監修・編集、318-20、日本医師会 東京 2019
3. 駒井宏好 下肢動脈の解剖② 膝下膝窩動脈、下腿三分枝、足部閉塞性動脈硬化症 血行再建ガイド 古森公浩、編 27-32 日本医事新報社 東京 2019
4. 駒井宏好 膝窩動脈補足症候群 今日の診断指針 第8版 917 医学書院 東京 2020

◆原 著

1. 三井信介、重松邦広、東 信良、石田敦久、和泉裕一、井上芳徳、内田 恒、遠藤将光、大木隆生、隈 宗晴、黒澤弘二、児玉章朗、駒井宏好、古森公浩、渋谷 卓、進藤俊哉、杉本郁夫、出口順夫、錦見尚道、保科克行、前田英明、緑川博文、宮田哲郎、山岡輝年、山下裕也、柚木靖弘、高橋 新、宮田裕章 日本血管外科学会JCLIMB委員会、NCD JCLIMB分析チーム JAPAN Critical Limb Ischemia Database (JCLIMB) 年次報告集計(2013年~2016年)日血外会誌 28 : 219-247 2019.
2. 三井信介、重松邦広、東 信良、石田敦久、和泉裕一、井上芳徳、内田 恒、大木隆生、隈 宗晴、黒澤弘二、児玉章朗、駒井宏好、古森公浩、渋谷 卓、進藤俊哉、杉本郁夫、出口順夫、保科克行、前田英明、緑川博文、宮田哲郎、山岡輝年、山下裕也、柚木靖弘、高橋 新、宮田裕章 日本血管外科学会JCLIMB委員会、NCD JCLIMB分析チーム 2017年JAPAN Critical Limb Ischemia Database (JCLIMB) 年次報告 日血外会誌 28 : 415-443 2019.
3. 山本暢子、坂下英樹、深山紀幸、高井佳菜子、駒井宏好 Perfusion Indexを用いた簡易的重症下肢虚血評価の可能性の検討 日血外会誌 29 : 103-108 2020.

◆症例報告

1. 高井佳菜子、駒井宏好、大久保緑、山本暢子、深山紀幸、坂下英樹 メディカルスタッフによる足病変発見システムにより発見され救肢しえた糖尿病合併重症下肢虚血の1例 日本フットケア学会雑誌 17 : 96-99 2019.

◆総 説

1. Komai H. Multidisciplinary treatment for critical limb ischemia in peripheral arterial disease. Ann Vasc Dis. 25 : 151-156 2019.
2. 駒井宏好 はじめに 効果的な連携で患者の足を守る! 地域で取り組むフットケア 看護技術 : 65 : 952 2019
3. 大久保緑 自信がもてる! 血糖管理と糖尿病ケア (PART 2) 原疾患別血糖管理と患者ケア 慢性腎不全(糖尿病腎症)の患者 ナーシング 39 : 46-50 2019.
4. 大久保緑 効果的な連携で患者の足を守る! 地域で取り組むフットケア (Part 2) 地域・多職種連携で取り組むフットケアの実際 足病変の早期発見と対応を目指した地域連携フットケアシステム「北河内連携フットスキャン」看護技術 65 : 956-958 2019.

②学会発表その他

【国際学会】

1. Kanako Takai, Hiroyoshi Komai, Hideki Sakashita, Noriyuki Miyama, Nobuko Yamamoto. Safety and effectiveness of incomplete revascularization for critical limb ischemia in patients with peripheral arterial disease. The 11th Japan-Korea Joint Meeting for Vascular Surgery, Nagoya 2019

2. Noriyuki Miyama, Hiroyoshi Komai. Special lecture Team Approach for Management of CLI. The 20th Congress of Asian Society for Vascular Surgery Bali, Indonesia 2019
3. Nobuko Yamamoto, Noriyuki Miyama, Kanako Takaki, Hiroyoshi Komai. Clinical evaluation of heparin-bonded ePTFE vascular graft. The 20th congress of Asian Society for Vascular Surgery Bali, Indonesia 2019
4. Kanako Takai, Hiroyoshi Komai, Hideki Sakashita, Noriyuki Miyama, Nobuko Yamamoto. Endovascular treatment for arteriovenous fistula of left common iliac artery aneurysm complicated with pulmonary embolism. The 11th Meeting of the German-Japanese Society for Vascular Surgery Beppu 2019

【総 会】

◆特別発表

1. 駒井宏好 バネルディスカッション16 「重症虚血肢外科治療の限界への挑戦」血管内治療全盛時代における重症下肢虚血患者に対するバイパス術の有用性、安全性 第119回日本外科学会 大阪 2019
2. 駒井宏好 学術セミナー3 知らずにできない! 最新のガイドラインから見た虚血性足病変の治療 SVS、ESVSガイドラインを中心に 第11回日本下肢救済・足病学会 神戸 2019
3. 山本暢子、深山紀幸、高井佳菜子、駒井宏好 シンポジウム13 女性医師の会 医師として、そして女性医師としてのこれまでとこれから 第47回日本血管外科学会 名古屋 2019

◆一般発表

1. 宮野竜一、岡本峰夫、大久保緑、駒井宏好、清水秀和 「北河内連携フットスキャン」への連携について 第63回日本透析医学会 横浜 2019
2. 深山紀幸、坂下英樹、山本暢子、高井佳菜子、中森 靖、駒井宏好 破裂性腹部大動脈瘤・腸骨動脈瘤に対するHybrid Emergency Room (Hybrid ER)での緊急EVARの試み 第47回日本血管外科学会 名古屋 2019
3. 坂下英樹、善甫宣哉、高井佳菜子、山本暢子、深山紀幸、駒井宏好 弓部分枝動脈損傷に対する治療法 第81回日本臨床外科学会 高知 2019
4. 山尾 順、奥野雅史、吉田和正 DOAC使用後に無再発の経過をたどった難治性鬱滞性皮膚炎の2例 第81回日本臨床外科学会 高知 2019
5. 坂下英樹、善甫宣哉、桑内慎太郎、岡田隆之、細野光治、金本真也、湊 直樹、川副浩平 当院でのAFXを使用したEVARの成績 第60回日本脈管学会 東京 2019
6. 山本暢子、深山紀幸、高井佳菜子、駒井宏好 当科におけるヘパリン使用ePTFE人工血管の使用経験 第60回日本脈管学会 東京 2019
7. 山尾 順、奥野雅史、駒井宏好 エドキサパンが奏功した血栓後症候群による難治性皮膚潰瘍の一例 第60回日本脈管学会 東京 2019

◆座 長

●駒井宏好

1. Global Vascular Guideline 第47回日本血管外科学会 名古屋 2019
2. Symposium "Clinical Research from Japan Korea" The 11th Japan-Korea Joint Meeting for Vascular Surgery, Nagoya 2019

3. 一般演題 6 バスキュラーラボ
第39回日本静脈学会 名古屋 2019

●深山紀幸

1. 一般演題 末梢血管
第34回日本血管外科学会近畿地方会 枚方 2020

【地方会、研究会】

1. 山本暢子、深山紀幸、高井佳菜子、駒井宏好
大腿深動脈起始部をjailしたステントが閉塞した後の大腿-膝窩動脈バイパスの2例
第143回 大阪血管外科同好会 大阪 2019
2. 北岡由佳、高井佳菜子、山本暢子、坂下英樹、駒井宏好
腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術および冠動脈バイパス術を同時施行した1例
第34回日本血管外科学会近畿地方会 枚方 2020

③講 演

●駒井宏好

1. 明日から役立つ閉塞性動脈硬化症の治療のコツ
枚岡医師会学術講演会 東大阪 2019.6.18
2. がん治療における静脈血栓塞栓症の予防 ～チーム医療の重要性～
エリキューズWEBセミナー 2019.6.20
3. 静脈疾患の診断と治療
第43回CVT認定講習会 名古屋 2019.7.6
4. 下肢のむくみにどう対処するか? ～深部静脈血栓症の早期治療の意義～
循環器関連疾患セミナー 特別講演II 大阪 2020.1.25
5. 悪性腫瘍と静脈血栓症 がんをみたら血栓症を避け! 血栓症をみたらがんを疑え!
Thrombosis Conference 特別講演 田辺 2020.1.30
6. 地域の血管疾患をいかに防げるか? 当院における血管病早期発見システムの構築
VTEセミナー in SENDAI 仙台 2020.2.13

●坂下英樹

1. 癌関連血栓症の診断と治療
Cancer-associated thrombosis Seminar 大阪 2019.5.17
2. 日常診療におけるVTEの診断と治療
淀川V・I・Pフォーラム 大阪 2019.9.28

●深山紀幸

1. 最近のVTEに関する話題
深部静脈血栓症・肺塞栓治療を考える会 枚方 2019.11.13
2. 大動脈瘤、大動脈解離に対するステントグラフト内挿術
Cardiovascular linked seminar in Kitakawachi 大阪 2020.2.1

④学会・研究会主催

1. 第34回日本血管外科学会近畿地方会 枚方 2020.2.20

<当科医局員出張、外勤先(定期、非定期を含む)>

1. 関西医大香里病院(寝屋川)
2. 関西医大附属病院(枚方)
3. 暖生会脳神経外科病院(四条畷)
4. 交野病院(交野)
5. 吉田病院(枚方)
6. 小野山診療所(守口)
7. 上山病院(寝屋川)
8. 大阪赤十字病院(天王寺区)
9. 羽原病院(泉佐野)
10. 森小路清水会クリニック(旭区)
11. 白鷺病院(東住吉区)

12. 寝屋川生野病院(寝屋川)
13. いぶきクリニック(門真)
14. 大野記念病院(西区)
15. 宝持会池田病院(東大阪)
16. 大和橿原病院(橿原)
17. 恵生会病院(東大阪)

本年度もおかげさまで大過なく診療を行うことができました。2019年からの世の中での最も大きな出来事はやはりコロナ禍でしょう。当院も地域のコロナ患者の治療に積極的に協力してきました。現在は全身麻酔での手術患者全員にPCR検査を行える体制となり、患者様も医療従事者も安心して通常の外科治療が行えています。今回の新型コロナウイルスのパンデミックで思うことは、医学が進歩しても、またお金や名誉がいくらあっても、人間にはなんともできないこともまだまだあるのだ、ということでした。と同時に何が本当に必要で、何が本当は不要であったのか、考えさせられる良いきっかけとなったとも言えます。学会や会議、ミーティングは一同に集まらなくてもWebで可能であることを知りました。休みに買い物や旅行に行けることが普通ではなかったこともわかりました。家族とともに家で過ごすことの重要性もわかってきました。コロナ禍は大変なことですが、これを通じて新たな発見をして、人間的に成長できるよう心がけようと思います。コロナの蔓延した現在でも通常の血管診療は続けていかなければなりません。重症度や緊急性を考慮しながらあくまでも「患者本位の治療」を行えるよう工夫し努力してまいります所存です。

今後ともどうぞよろしくお願いたします。

令和2年夏

関西医科大学総合医療センター 血管外科

教授 駒井 宏好